

## 第1回みやぎ観光振興会議大崎圏域会議 概要

### 委員からの主な意見

- ①大規模な旅館では、県内の宿泊客だけでは採算ラインを確保できないことから、関東方面からの宿泊客の誘客を進めていきたい。
- ②新しい生活様式が定着して行く中、安全・安心に重点を置いたおもてなしが必要だが、経費も人手もかかる。今後、客足の動向にかかわらず、公共料金や管理費等の固定経費はかかるので、どのように収支バランスをとっていくかが経営上の課題である。
- ③コロナ禍において、旅行需要を高めていくには、受入側の地域とも連携した旅行や外出をしようといった観光機運の醸成が大事である。
- ④スポーツレジャーはここ10年で最も伸びており、資源投下しマーケット化して行きたい。また、観光振興を進めていくためには、消費者動向の分析やマーケットの誘導が必要である。
- ⑤行動のエリアが広がれば不安も広がる。ステップ1～3も県外移動が一気に全国まで広がっているが、もう少し段階を丁寧に細かくして行く必要があるのではないかな。
- ⑥東北六県内の旅行等を対象にした支援策があると良い。
- ⑦感染拡大防止とトレードオフが大事であるが、来てくださいと言えない中で、どのようにして誘客するのか。そのためには、地域の底力として魅力アップや職員のおもてなし教育が重要と考える。
- ⑧近隣地域との連携により、観光客を周遊できるようにしたい。また、地元の人に地域の魅力を知ってもらえるような取り組みが必要である。
- ⑨国・県・市町村が地元の意向に沿いながら、有効的に活用できるような観光振興事業の制度設計を検討いただきたい。
- ⑩健康を売りにしたワーケーションを推進したいが、鳴子温泉は、硫黄ガスにより電子製品等の劣化が早いので機器の更新費用がかかるので、支援してもらいたい。
- ⑪市町村では人員が不足していることから、県が観光需要を拡大のため、観光のCMを作成・放送していただきたい。
- ⑫鳴子温泉で休前日に花火を打ち上げる場合、誘客支援として県が支援できないかな。
- ⑬大きなマーケットである教育旅行について、関東から東北への方面変更など問合せ増えてきており、バス利用が三密回避のため台数増による経費増が見込まれることから、インパクトのある助成をお願いしたい。